

くものいと

第12号
1-Ⅱ-1993
関西クモ研究会
大阪府茨木市

洛北鷲森神社のクモ類 (1)

新海 明

筆者は、1992年5月10日に京都市左京区にある鷲森神社付近においてクモを採集する機会があった。ここではその時の採集目録を報告する。

調査にあたり、吉田真氏には調査地の案内と宿舎をお世話いただいた。また、谷川明男氏には標本の同定をお願いした。ここに御礼申し上げる。

略号の説明：F（雌成体）、M（雄成体）、f（雌幼体）、m（雄幼体）、
y（雌雄不明幼体）。

	Ctenizidae	トタテグモ科	
1. <i>Latouchia typica</i>		キシノウエトタテグモ	y
2. <i>Ummidia frgaria</i>		キノボリトタテグモ	住居
	Uloboridae	ウズグモ科	
3. <i>Uloborus varians</i>		ウズグモ	F
	Phlocoidea	ユウレイグモ科	
4. <i>Pholcus crypticolens</i>		ユウレイグモ	F
	Theridiidae	ヒメグモ科	
5. <i>Achaearanea tepidariorum</i>		オオヒメグモ	M
6. <i>Theridion chikunii</i>		バラギヒメグモ	M
7. <i>T. latifolium</i>		ヒロハヒメグモ	F
8. <i>T. subadultum</i>		コケヒメグモ	M
9. <i>T. sterninotatum</i>		ムナボシヒメグモ	F
10. <i>Dipoena mustelina</i>		カニミジグモ	M

- | | | |
|-------------------------------------------|------------|----|
| 11. <i>Argyrodes fur</i> | フタオイソウロウグモ | My |
| 12. <i>A. cylindrogaster</i> | オナガグモ | F |
| 13. <i>Enoplognatha transversifoveata</i> | カレハヒメグモ | F |

Linyphiidae サラグモ科

- | | | |
|--------------------------------------|----------|---|
| 14. <i>Linyphia japonica</i> | ツリサラグモ | F |
| 15. <i>L. yunohamensis</i> | ユノハマサラグモ | F |
| 16. <i>Neolinyphia nigripectoris</i> | ムネグロサラグモ | F |
| 17. <i>Labulla contoripes</i> | アシヨレグモ | F |

Urocteidae ヒラタグモ科

- | | | |
|--------------------------------|-------|---|
| 18. <i>Uroctea compactilis</i> | ヒラタグモ | y |
|--------------------------------|-------|---|

Araneidae コガネグモ科

- | | | |
|------------------------------------|-------------|----|
| 19. <i>Araneus pentagrammicus</i> | アオオニグモ | M |
| 20. <i>Zilla sachalinensis</i> | カラフトオニグモ | F |
| 21. <i>Z. astridae</i> | サガオニグモ | FM |
| 22. <i>Neoscona scylla</i> | ヤマシロオニグモ | y |
| 23. <i>N. sp.</i> | ヤミイロオニグモの一種 | F |
| 24. <i>Argiope amoena</i> | コガネグモ | y |
| 25. <i>A. boesenbergi</i> | チュウガタコガネグモ | y |
| 26. <i>Cyclosa octotuberculata</i> | ゴミグモ | M |
| 27. <i>C. sedeculata</i> | ヨツデゴミグモ | Fy |
| 28. <i>C. argenteoalba</i> | ギンメッキゴミグモ | FM |
| 29. <i>C. monticola</i> | ヤマゴミグモ | F |
| 30. <i>C. laticauda</i> | キジロゴミグモ | m |

Tetragnathidae アシナガグモ科

- | | | |
|---------------------------------|---------------|---|
| 31. <i>Tetragnatha squamata</i> | ウロコアシナガグモ (?) | y |
|---------------------------------|---------------|---|

Agelenidae タナグモ科

- | | | |
|----------------------------|----------|---|
| 32. <i>Agelena limbata</i> | クサグモ | y |
| 33. <i>A. opulenta</i> | コクサグモ | y |
| 34. <i>Coelotes antri</i> | ホラズミヤチグモ | F |

	Anyphaenidae	イツツグモ科	
35.	Anyphaena pugil	イツツグモ	f
	Selenopidae	アワセグモ科	
36.	Selenops bursarius	アワセグモ	Ffmy
	Heteropodidae	アシダカグモ科	
37.	Heteropoda forcipata	コアシダカグモ	?
	Thomisidae	カニグモ科	
38.	Bassaniana decorata	キハダカニグモ	M
39.	Misumenops tricuspidatus	コハナグモ	m
40.	Oxytate striatipes	ワカバグモ	fy
	Salticidae	ハエトリグモ科	
41.	Carrhotus xanthogramma	ネコハエトリ	F

今回は以上のように14科41種類のクモが確認できたが、鷲森神社での調査は今後も続けたいと考えている。追加種がまとまり次第また報告したい。

クモタケーキシノウエトタテグモ広域調査のお願い

滋賀大学の大学院生で関西クモ研究会の会員である畑守さんは現在、クモタケの感染や発病の過程を調べています。

クモタケはキシノウエトタテグモに寄生する冬虫夏草です。キムラグモやキノボリトタテグモにも寄生するという報告もあるようですが、未確認です。クモタケは成長すると子実体を伸すので、この時期にはたやすく発見できます。逆に言うと、クモタケを発見できれば、キシノウエトタテグモを発見したことにもなります。ご承知のように、キシノウエトタテグモの分布も関西では詳細に分かっているとはとても言えない状態です。

そこで、クモタケが子実体を伸ばす6月末から7月初めにかけて、関西クモ研究会としてクモタケーキシノウエトタテグモの分布調査をしてはどうかと思います。趣旨に賛同される方は、調査していただくよう、お願いします。

なお、東京蜘蛛談話会もこの調査をされるそうです。

クモに関する最近の情報

八木沼 健夫

A. 図書紹介

1. 週刊朝日百科（動物たちの地球）、82号。
昆虫の部の最後の82号にクモが特集される。多数のクモ生態・分類などの専門家による執筆（1993年1月に発売の予定）。
2. Acta arachnologica, 41（2）。1992年12月発行。
3. 中平清著「続クモのふるまい」
著者自刊。定価1500円+郵送料（310円）。希望者は著者へ。（当日展示）
4. 遺伝（1992年8月号）：特集クモ糸を吐く狩人。
5. 蛛形学報、1（1）、1992。-中国のクモ学雑誌（ダニ含む、多足含まず）。湖北大学内、中国動物学会蛛形学専門委員会発行（中国湖北省武漢市保集安）。編集委員長 趙敬。（当日展示）
6. Arthropoda Selecta, 1（1）（2）、1992。
ソ連から新しく出た節足動物学雑誌（クモを含む）。（当日展示）

B. クモの分類に関するニュース

1. ドヨウグモ・ジョロウグモ（アシナガグモ科）その後
1991年11月16日 本会例会で、ドヨウグモ（Metaほか）、ジョロウグモ（Nephila）がコガネグモ科からアシナガグモ科に移されていることを紹介し、翌月「蜘蛛」（24）、1991に記事として揚げた。
その後いくつかの情報を入手したので追加として報告する。

A. コガネグモ科 T. アシナガグモ科

提唱者		Nephila	Meta
1986	Wunderlich (p.105)	A	T
	Wunderlich (p.116-117)	A	A
1987	Wunderlich		A
1988	Wunderlich	T	
1989	Levi & Eickstedt	T	
1990	Eberhard	T	
1991	Wunderlich		T
1991	Coddington & Levi	T	T
1992	Roth	T	T
1992	Marusik & Koponen		T
1992	Higgins	T	

2. オビジガバチグモの雄発見

オビジガバチグモは中国や韓国で♀のみで記載された *Castianeira shaxianensis* Gong, 1983 であることを報告 (ATYPUS, 88/89, 1991)したが、最近になって清水裕行氏がすでに♀と同一場所で♂を採集されていたことが分かったので新記録として報告する。

採集記録：西宮市苦楽園 (12-VII-1980, ♀; 14-VI-1987, ♂; 2-VII-1988, 2♂)

中国からは、ほかに *Castianeira flavimaculata* Hu et al., 1985 や、*C. hamulata* Song et Zhu, 1992 が記載されているが、♀の外雌器の形はまったく異なっているし、♂触肢の部分的形態が違っているので、はっきり区別される。いずれ改めて詳報の予定である。

既知産地：中国 (福建省沙県, ♀), 韓国 (♀), 日本 (♀, ♂)。

3. キタドヨウグモの発表

キタドヨウグモはわが国では長い間、ヨーロッパの *Meta segmentata* (Clerck, 1758) に同定されてきたが、八木沼は日本のものはまったく別種であること、また属は *Meta* ではなくて *Metleucauge* であることを報じた (追大文紀 (20), 1986)。そこでこれを新種として発表を予定していたところ、最近谷川明男氏が *Metleucauge* のモノグラフを発表されると聞いたので、キタドヨウグモの記載発表を谷川氏に委任した。近く発表されるであろう。

Meta segmentata の属も *Meta* でよいか、*Metellina* とすべきかは議論のあるところであるが、今回はそれにはふれない。

4. ジョウゴグモの科名

ホルストジョウゴグモ *Macrothele* sp. やオーストラリアのシドニージョウゴグモ *Atrax robustus* などは、従来 *Dipluridae* と扱われてきたが、Raven (1985) は *Dipluridae* の亜科のいくつかを科の rank に引き上げ、上記クモの属する亜科 *Hexathelinae* を昇格させて *Hexathelidae* としたため、ジョウゴグモ科の学名は *Hexathelidae* となる。

5. シボグモモドキ科について

Zoridae の和名はミヤマシボグモ科として発表されたが、属和名と科和名の不一致から今後の混乱を避ける意味で、西川喜朗・加村隆英両氏はシボグモモドキ科と改称された (青木淳一編：日本産土壌動物検索図説、クモ目 54)。このことについては、すでに八木沼が私見を述べた (蜘蛛, No. 24, 1991, p. 214; ATYPUS (100), p. 37, 1992)。

○○モドキについて

科名にモドキを使用するのは良くないとの意見もあるが、是非はともかく、すでに鳥、昆虫、多足、ダニ、ヤスデなどに多くの例がある。

○○モドキの頭に修飾詞をつける場合は注意を要する。コオニグモモドキはコ | オニグモモドキなのか、コオニグモ | モドキなのか、またミヤマシボグモモドキはミヤマ | シボグモモドキか、ミヤマシボグモ | モドキか不明瞭

である。

6. どちらの学名がよいか

われわれが日頃使い馴れている学名に対し、別の学名が提案されているのがいくつかある。問題提起の意味でおもなものを示す。

いままで使われてきた学名	新しく提案されている学名
ナガクモ <i>Oecobius annulipes</i> Lucas, 1846	<i>O. navus</i> Blackwall, 1859
コケビトモ <i>Araneus tartaricus</i> (Kroneberg, 1875)	この学名でよいか?
ナカムシトモ <i>Araneus cornutus</i> (Clerck, 1758)	<i>A. folium</i> (Schrank, 1803)
ヤガタツクモ <i>Clubiona yagata</i> Yaginuma, 1972	<i>C. riparia</i> L. Koch, 1866
クリイロツクモ <i>Clubiona badia</i> Peetle et Saito, 1932	同上
ヤハネハトリ <i>Marpissa pomatia</i> (Walck., 1802)	<i>M. radiata</i> (Grube, 1857)

提案されている学名をそのまま使用してよいかは、今後の検討を要する。

本論は追手門学院大学文学部紀要(26), 1992に掲げた。近く別刷ができあがる予定である。

この講演記録には文献を省いた部分があるが、希望の方にはお申し出があれば詳細お知らせする。(1992年12月20日. 追手門学院大学にて)

関西クモ研究会例会の記録

1992年12月20日(日) 午後1:30-6:00

追手門学院大学4号館442号教室

1) 八木沼健夫:クモに関する最近の話題, 2) 東條清:和歌山クモの会の近況報告, 3) 須賀瑛文:中部区も談話会の近況報告, 4) 福本伸男:本草学者大上宇一について, 5) 西川喜朗:ロシア沿海州調査行の話, 6) 各自の近況報告, 7) VTR鑑賞(クモの登場するテレビ番組を録画編集したビデオ:八木沼先生保管No. 5)

出席者(50音順)

浅井元朗, 芦田喜治, 天野一郎, 板倉泰弘, 稲垣成二, 大崎茂芳, 加村隆英, 加村昌枝, 清水裕行, 須賀瑛文, 田中穂積, 垂水有三, 東條清, 西川喜朗, 野戸章, 福本伸男, 細田みどり, 八木沼健夫(計18名)

イソコモリグモについて

金野 晋

1. 1991年と1992年に以下の19地点でイソコモリグモの分布を調査した。

- 調査地 ①小清水海岸 ②野付半島 ③昆布森海岸 ④晩生海岸 ⑤浜厚真海岸
⑥高山稲荷海岸 ⑦赤石川河口 ⑧大戸瀬海岸 ⑨風合瀬海岸
⑩浜浅内 ⑪桂浜海岸 ⑫松ヶ崎海岸 ⑬十里塚海岸 ⑭蓬莢山
⑮桃崎海岸 ⑯大夫浜 ⑰鴨川海岸 ⑱浜岡砂丘 ⑲久僧海岸

調査結果は図1. および表1. に示した。

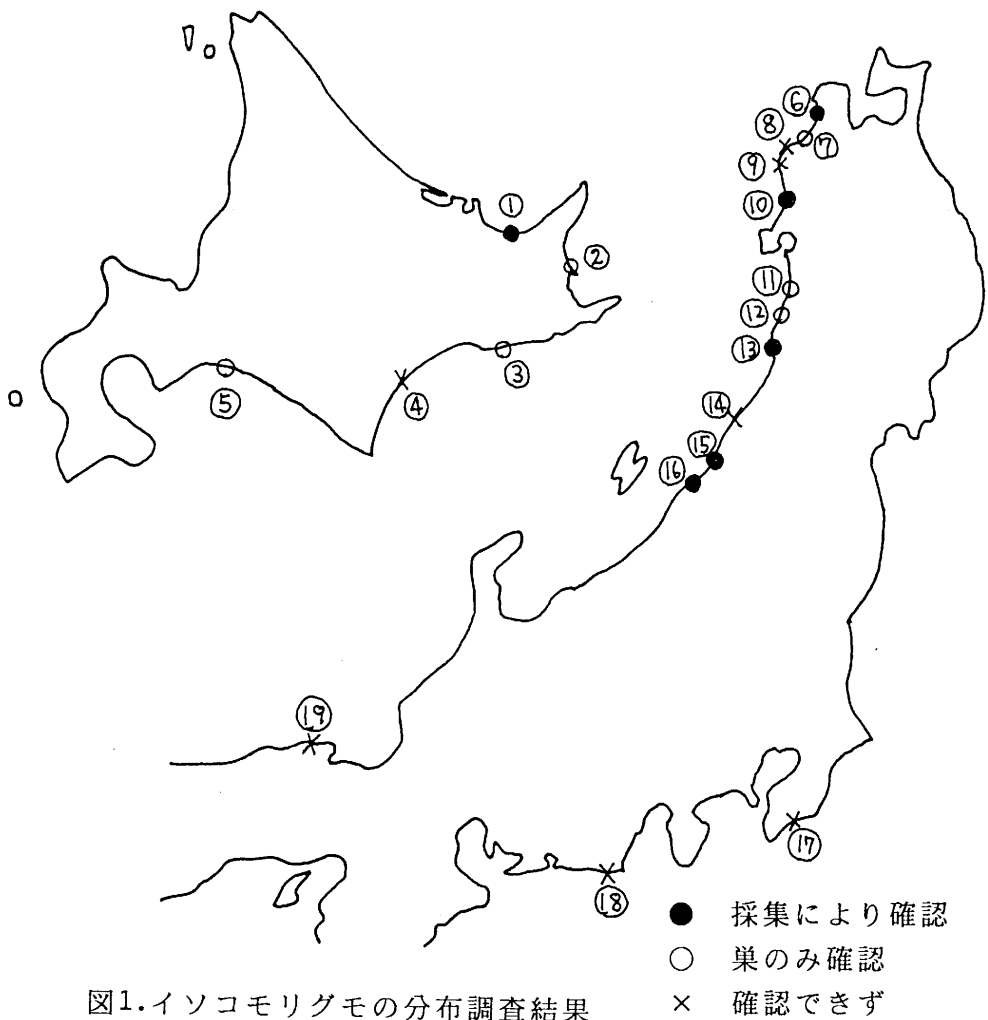


図1.イソコモリグモの分布調査結果

表1. イソコモリグモの分布状況

地点	調査年月日	分布	内容	個体数
①斜里郡小清水海岸	1991. Jul. 23.	○	巢	多
	1991. Sep. 10.	○	成	多
	1992. Jul. 7.	○	亜成	多
②標津郡野付半島	1992. Jul. 10.	○	巢	1
③厚岸郡昆布森海岸	1992. Jul. 6.	○	巢	1
④中川郡晩生海岸	1991. Sep. 12.	×		
⑤勇払郡浜厚真海岸	1992. Jul. 13.	○	巢	多
⑥西津軽郡高山稲荷海岸	1992. Sep. 29.	○	成	多
⑦西津軽郡赤石川河口	1992. Sep. 29.	○	巢	少
⑧西津軽郡大戸瀬海岸	1992. Sep. 29.	×		
⑨西津軽郡風合瀬海岸	1992. Sep. 29.	×		
⑩能代市浜浅内海岸	1992. Sep. 26.	○	成	多
⑪秋田市桂浜海岸	1992. Sep. 30.	○	巢	多
⑫本庄市松ヶ崎海岸	1992. Sep. 30.	○	巢	2
⑬酒田市十里塚海岸	1992. Sep. 30.	○	幼	多
⑭岩船郡蓬莢山	1992. Sep. 30.	×		
⑮北蒲原郡桃崎海岸	1992. Sep. 30.	○	成	多
⑯新潟市大夫浜	1992. Sep. 25.	×		
	1992. Sep. 30.	○	成	多
⑰鴨川市鴨川海岸	1991. Nov. 25.	×		
⑱遠笠郡浜岡砂丘	1991. Oct. 4.	×		
	1992. Oct. 15.	×		
⑲竹野郡久僧海岸	1992. Aug. 30.	×		

イソコモリグモは北海道の海岸と東北地方の日本海側海岸に広く分布することが確認された。しかし、分布が確認できなかったところもあり、今回調査していない地域も含めてさらに細かい調査が必要かもしれない。

今回の調査では、多数の巣が確認された地点での分布は带状で波うち際から最初の段丘のふもとに多かった(図2.)。水際からの距離は一定ではなく、普段の潮の干満よりも高潮時の水没限界が影響しているのではないだろうか。

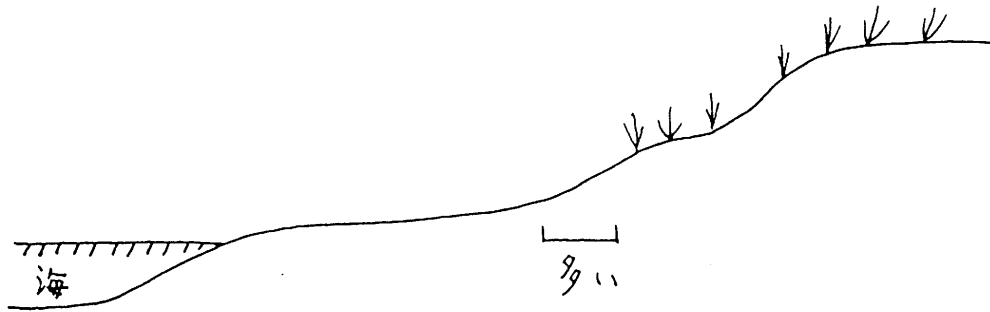


図2. イソコモリグモの巣の分布概念図

また、防波堤のある海岸では、堤外にかなり広い砂地が必要なようで防波堤のあった⑦赤石川⑧大戸瀬⑨風合瀬⑫松ヶ崎海岸⑬十里塚⑭蓬萊山⑰鴨川⑱浜岡のうち、イソコモリグモが確認できなかった⑧⑨⑭⑰⑱はいずれも砂浜の奥行きが狭かった。

砂の質は好みがあるのかどうかはわからないが、③昆布森④晩生⑤浜厚真は比較的荒い砂の地点で、特に⑤浜厚真は直径2～3mm程度のざらめ状の砂であったが巣穴とその中に脱皮殻が多数見られた。③昆布森④晩生の両地点は砂の状態は似ていたが④晩生では分布が確認できなかった。ただし、⑯太夫浜の様に、当初確認できなかった分布が後から確認されることもあるので、今回確認できなかった地域はもっとていねいに調査するほうがよいだろう。

2. 野外におけるイソコモリグモの餌

野外でイソコモリグモがなにを餌にしているかを確認したかったが、残念ながら捕食しているところは見られなかった。クモの採集中に巣の中から脱皮殻が見られることが多く、食べかすと思われるものもわずかだが見られた。また、分布地で昆虫などの残骸が見られることもあったので、その種をしめした。しかし、これらがイソコモリグモによって捕食されたものかどうかは不明である。

巢内： イソコツブムシの死骸。

小清水海岸、七里ヶ浜海岸

巢外： ヒョウタンゴミムシ、ヒメコガネ、ハマヒョウタンゴミムシダマシ、コホネゴミムシダマシ、ホネゴミムシダマシ、スナムグリヒョウタンゾウムシ、キベリマルヒサゴコメツキ、ハマスズ、ハマトビムシ類。

小清水海岸、昆布森海岸、浜厚真海岸、七里ヶ浜海岸、大夫浜

次の飼育結果にしめしたように、イソコモリグモはあまり昆虫の捕獲がうま

くない。飼育下では巣内で餌を食べることが多いので昆虫類を主食としているならば野外の巣の調査でもっと多くの昆虫類の残骸が見られてもよいのではないだろうか。海岸には多くの別種のコモリグモが見られる。もしかすると、これらのクモが重要な餌になっているかもしれない。クモの外皮は昆虫に比べると弱く残りにくいと思われるし、野外で見落としている可能性も高い。

3. 飼育下でのイソコモリグモの餌

イソコモリグモを室内の砂を入れた容器で飼育して、いろいろな餌を与えて捕食の様子を観察した。容器の中では砂が浅いためか野外で見られるようなきれいな巣を作らないが、巣を作っている場合は、巣の近くに餌がきたときに飛びだして襲いかかり、外で捕まえた餌は巣に持ちこんで食べる。食べかすは巣の外に運びださず、時々巣を移動することによって巣内を清潔に保っているようだ。

巣を作っていない場合は捕獲した場所で餌を食べ、食べ残しは放置している。

1) ♂ Sub A 体長17mm 1992. Jul. 7. 北海道小清水海岸にて採集。

1992. Sep. 23. 成体 (Sep. 16. から脱皮のため砂中にもぐったままで観察できなかった)。

ケラ	30mm	可	与えた直後は捕食できなかったが、後に捕食されているのを観察した。
タンボコオロギ	15mm	良	
エンマコオロギ	33mm	不可	捕獲できない。
ササキリ幼虫	10mm	良	
コガネムシ幼虫	15mm	良	
コガネムシ幼虫	25mm	良	
コガネムシ幼虫	30mm	不可	捕獲できない。
ビロードコガネ	9mm	良	いきなり噛み砕く。
スジコガネ	17mm	良	回転させてかみつ場所を探す。
ヨモギハムシ	6mm	不可	噛みつくがすぐに放す、ハムシの出す防御物質のためだろう。
モンシロチョウ幼虫	30mm	不可	捕獲できない。
ハサミムシ幼虫	12mm	良	
オオハサミムシ	30mm	不可	鉋子に撃退される
同上 (鉋子を切った物)	25mm	不可	多少攻撃するが、反撃され捕食できない。
オカダンゴムシ	8mm	可	団子状になると捕食できない。

2) ♀成体、体長25mm~35mm、4個体、1992. Sep. 26. ~30. 採集。巣を掘ったものの3。

タンボコオロギ	15mm	良	
エンマコオロギ	33mm	不可	捕獲できない。
セスジツユムシ	35mm	良	衰弱した個体を巣に押し込むと捕食した。
コガネムシ幼虫	30mm	可	
ヨモギハムシ	6mm	不可	噛みつくがすぐに放す、ハムシの防御物質のためか。
ヨトウガ幼虫	25mm	可	一番大型の個体のみ捕食。襲われると体を激しく振って抵抗するためか。
モンシロチョウ幼虫	30mm	良	
オカダンゴムシ	8mm	可	捕獲時に団子状になると捕食できない。

3) 幼体、体長8mm~12mm、13個体、1992. Sep. 26. ~30. 採集 (Dec. 1. 現在生き残り2個体)

モンシロチョウ幼虫	30mm	不可	捕獲できない。
モンシロチョウ幼虫	10mm	可	6個体が捕食。
ツマグロヨコバイ	5mm	良	
ハムシ幼虫	7mm	良	

飼育の結果イソコモリグモはあまり大きな餌や、抵抗する餌を採るのは苦手なようである。また、ハムシやテントウムシのような防御物質にたいしても弱く、簡単に捕食をあきらめる。これらは絶食させて空腹状態と思われるときも、多少攻撃が長続きするぐらいでありあまり変わらない。

大あごはピロウドコガネ程度の外皮は噛み破ることができるが、ダンゴムシが球形になったものは噛み砕けない。スジコガネの様に外皮が固い物は、前胸と中胸の間にある膜質部をねらってかみつく。

4. イソコモリグモの敵

1992. Sep. 26. 能代市浜浅内にてオオモンクロベッコウが砂の上でドラミングを繰り返すのを目撃した。しばらく観察していたが結局ドラミングを繰り返すだけであった。観察者の動きに邪魔されたのかベッコウバチがその場を離れてから、調べるとイソコモリグモの巣があり、中に♀がいた。その後ベッコウバチを追跡調査したが、砂上をランダムに歩き回り、ドラミングを行うのみで新たな巣を見つけることができなかった。このオオモンクロベッコウは幼虫の

餌としてクモを狩ろうとしていたと思われる。

以上より、

- 1) オオモンクロベッコウはイソコモリグモの巣をドラミングにより発見でき、中にクモがいるかどうかは識別できる。
- 2) オオモンクロベッコウは飛翔中はイソコモリグモの巣を視覚的には見つけられない。
- 3) オオモンクロベッコウは自力では巣を掘りだすことはしない。おそらくイソコモリグモがドラミングに答えてか、いらついで自分から巣の外に出てくるのを待っているものと思われる。

このオオモンクロベッコウを採集することができなかったため、体長などは計測できなかった。

飼育結果より、ベッコウバチのほかオオハサミムシ、オサムシモドキ、オオヒョウタンゴミムシなどがイソコモリグモの捕食者になり得ると思われる。ただし、これらは生息環境が似ており同時に採集されることがある、というだけで直接観察したものではない。野外での観察が必要であろう。

最近採集したクモ数種

金野 晋

最近採集したクモの中でこれはと思う物を独断と偏見で選んで報告しておく。別途報告が出そうなものは除外したが、もし報告書が公にならないときは改めて報告したい。

オキナワトタテグモ? (キシノウエにしか見えないが、分布から判断)

徳之島徳之島町剝岳電波塔 1992. Oct. 30. 2♀、1♀は幼生と同居、巣多数

徳之島天城町三京 1992. Oct. 31. 2♀、巣多数

徳之島天城町当部 1992. Nov. 1. 2♀3y、巣多数

キノボリトタテグモ

三重県上野市西山 1991. Apr. 28. 1y

ヨリメグモ

奈良県吉野郡大塔村赤谷 1990. Dec. 30. 1♂

トゲグモ

京都府宮津市田井 1992. Jul. 28. 1♀

奈良県吉野郡大塔村赤谷 1990. Sep. 2. 1♀

ミズグモ

青森県西津軽郡車力村 1992. Sep. 29. 1 現在飼育中

大阪市内のキシノウエトタテグモ

金野 晋

細蟹舎通信(11)によると大阪市内のキシノウエトタテグモはめずらしいらしい。毎年高校の生物部の同窓会を兼ねて初詣と称してあちこちの神社をたずねているが、今年は大阪市内の神社に行くことになった。そこでキシノウエの分布を調べたので報告しておく。

ほとんどの元部員は結婚して家庭サービスに勤めなくてはならないため今年も私も含めて3人しか集まらなかった。地下鉄谷町線の谷町九丁目で降りて、生国魂神社へ行く。神社は上町台地にあり、西側が台地の端になるため石垣がある。この石垣をながめているうちにキシノウエのことを思いだした。気をつけてみると石垣の隙間に巣はたくさんあった。

この付近は小さな寺が密集した寺町になっている。しかし、これらの寺は一般には公開されていないのか、あるいは正月早々訪れる人がいないためか門を閉ざしているところが多い。2ヶ所の墓地でキシノウエを探したが、よく手入れをされていて見つけれなかった。

大江神社へ、神社は門がないので調べやすい。境内はきれいに掃き清められて望みは薄い。植え込みの下などをのぞいていたが回りの人が不信そうに見ている。裏参道の方には人がいないのでそちらに回る。やはり台地の端にあるため石垣がある。だがこの石垣は土の見える隙間が少ない。裏参道の木の根の周辺と石垣のわずかの隙間に巣があった。個体数は多くもなく少なくもないというところ。

四天王寺まで下る。こちら裏参道から入る。裏と言っても有名な寺であるから人は多い、灯明をともし拝んでいる人の間から小さな祠の台石の根元を見るとキシノウエの巣が見える。ここの巣はカラなのか中から引っ張っていない。数は多かった。植え込みの石垣の中で大きな巣を見つける。人差し指がスッポリ入るのでかなり大きい。カラだと思ったが開いていくと大きい♀の腹が見える。喜んで掘りだしてみたが最初の印象よりはかなり小さかった。この個体は同行者の井上氏に譲る。瓶に入れて眺め終えたときに、ここは公開していませんので出ていってくださいといわれた。

昼食後、神社を探しながら難波方面へつまり西へ移動する。後から地図を見ると小さな公園がいくつかあるので探せばよかったが、気付かずに通りすぎてしまった。うろ覚えで御堂筋に寺か神社があったような気がするので御堂筋へ。北上しながら探すが見つからない。難波神社へたどり着く。境内はかなり人が多くきれいに掃き清められていてだめだ。隅の築山へ入りたいのだが入り口を

閉めてあるため断念。キシノウエは見つからなかった。

東本願時の難波別院へ、中には入らずに外の石垣を調べたがヤチグモしか見つからない。西隣りの坐摩神社へ、かなり古い巣を見つけたがフタも無くはっきりしない。フタの残っている新しい巣か、中に生体が入っている巣が無いかと思って探すが見つからない。おそらく間違いないと思うが今回は保留しておく。

やや北の西本願時津村別院はコンクリートで固められているようなので外から見ただけであきらめた。さらに北の御霊神社へ、これも丁寧に庭をはいているため望み薄。なるべく掃除の行き届いてない所を探すが、結局見つからなかった。ここから少し西へいくと鞠(うつぼ)公園があるのだが、2人はすでに疲れているようなのであきらめる。5時間以上も歩き回っているのだからしかたない。京阪の淀屋橋駅へ出て本日の調査は終了。家に帰ってから地図で調べたら全行程約8kmであった。

とんでもない初詣に正月早々付きあってくださった井上龍一氏と大塚牧子さんに感謝します。

キシノウエトタテグモの確認地点

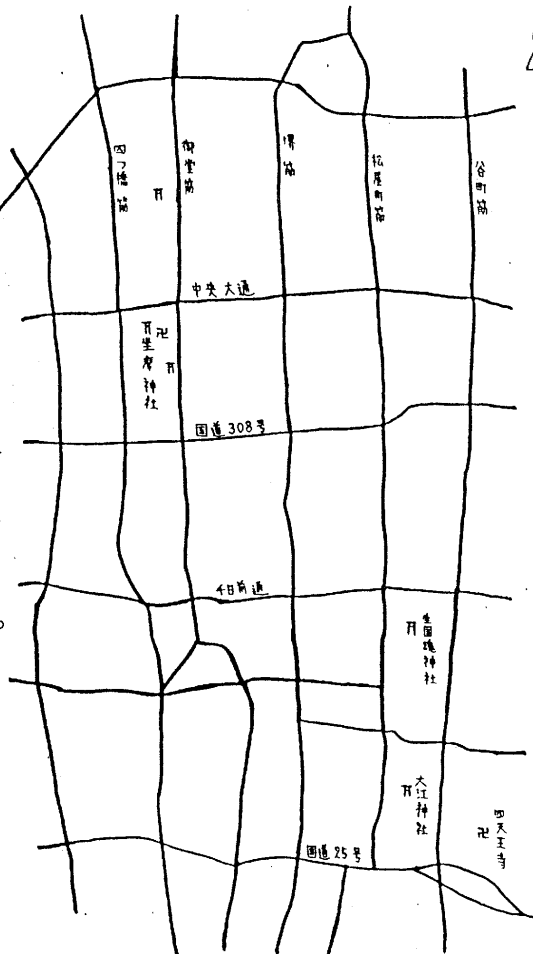
大阪府大阪市天王寺区

生国魂神社

大江神社

四天王寺

1993年1月2日確認



関西クモ研究会・和歌山クモの会合同観察会に参加して

和歌山クモの会 稲垣成二

7月11日と12日に和歌山県美里町で行われた観察会に参加させていただき、興味のある話や、まだ実際に見たことがなかったクモを観察することができ、非常に勉強になりました。

2年くらい前に、ある人から「クモはおもしろい。」と言われ、クモに興味を持つようになり、家の近くでクモを観察したり、クモに関係した本を読むようになったわけですが、観察に行ってみると、西川先生・吉田先生・加村先生など第一線で活躍されている先生方とご一緒だったので、たいへん緊張し、喉が乾いてビールばかり飲んでしまい、口が回るようになった頃には就寝となり、もう少しいろいろな話や分からないことを聞きたかったなと思っています。

初日の藤白坂での観察は、残念ながら仕事の関係で参加できませんでしたが、宿舎付近の夜間観察に行く前、に3人の先生方から貴重なスライドとおもしろく興味ある話を聞かせていただきました。

加村先生には、キムラグモやミズグモなどのスライドを見せていただき、自分もぜひ実際に見てみたくなりました。また、東條先生には、九州加治木町のクモ合戦のスライドを見せていただき、優良グモや美人グモの審査基準（八頭身美人であること）などたいへんおもしろい話を聞かせていただきました。さらに、西川先生には、冬虫夏草のスライドを見せていただき、今度観察に行ったら気をつけて探してみようと思っています。

二日目は雨も上がって絶好の観察日和となり、まだ見たことがなかったクモの名前を教えていただいたり、一度観察してみたいと思っていた、クサグモを食べているチリイソウグモを観察できたり、トビジロイソウグモがオオシロカネグモの餌を盗んでいるところを実際に見ることもできました。また、巣を横に作るジグモも見ることができ、紀南でもいるか探してみたいと思っています。

今回の観察会は、クモからシダまで非常に幅が広く充実した観察会でした。また機会があれば、ぜひ参加させていただきたいと思います。

◎ 関西クモ研究会合宿 (1992年7月11~12日)
で確認されたクモ

◇和歌山県海南市藤白 (7月11日)

トタテグモ科/キノボリトタテグモ(巢)

ハグモ科/ムツメカレハグモ

タマゴグモ科/ナルトミダニグモ

ヒメグモ科/ツリガネヒメグモ, オオヒメグモ, ムラクモヒシガタグモ, バラギ
ヒメグモ

サラグモ科/ユノハマサラグモ

カラカラグモ科/ヤマジグモ

コガネグモ科/ハツリグモ, アオオニグモ, ギンメッキゴミグモ, キヌアミグモ,
スズミグモ, カラフトオニグモ

アシナガグモ科/チュウガタシロカネグモ, オオシロカネグモ, アシナガグモ

ヒラタグモ科/ヒラタグモ

タナグモ科/クサグモ, コクサグモ, メガネヤチグモ

コモリグモ科/チビコモリグモ

ササグモ科/ササグモ

フクログモ科/イタチグモ

アシダカグモ科/コアシダカグモ

カニグモ科/コハナグモ

ハエトリグモ科/ネコハエトリ, マミジロハエトリ, ウデブトハエトリ

◇和歌山県海草郡美里町田~楡ノ木 (7月11日の夜間採集および12日)

カネコトタテグモ科/カネコトタテグモ(巢)

ジグモ科/ジグモsp.

ウズグモ科/マネキグモ, カタハリウズグモ, ウズグモ

ユウレイグモ科/ユウレイグモ

ヒメグモ科/カグヤヒメグモ, ヒメグモ, オオヒメグモ, アシブトヒメグモ, ト
ビジロイソウロウグモ, オナガグモ, チリイソウロウグモ, フタオイソウロウ

グモ(?), ヤリグモ, ハンゲツオスナキグモ, バラギヒメグモ, コケヒメグモ
サラグモ科/アシヨレグモ
センショウグモ科/オオセンショウグモ
カラカラグモ科/ヤマジグモ
ヨリメグモ科/ヨリメグモ
コガネグモ科/ハツリグモ, ヌサオニグモ, アオオニグモ, トガリオニグモ, マ
ルズメオニグモ, コガネグモ, チュウガタコガネグモ, ナガコガネグモ, コガ
タコガネグモ, キンメッキゴミグモ, キジロゴミグモ, ゴミグモ, ヨツデゴミ
グモ, アカイロトリノフンダマシ(♂), ワキグロサツマノミダマシ, イエオニ
グモ, ヤマシロオニグモ, ジョロウグモ, ズグロオニグモ, サガオニグモ, タ
ニマノドヨウグモ
アシナガグモ科/チュウガタシロカネグモ, オオシロカネグモ, コシロカネグモ,
アシナガグモ
ヒラタグモ科/ヒラタグモ
タナグモ科/クサグモ, コクサグモ, ヤマヤチグモ, シモフリヤチグモ
キシダグモ科/アオグロハシリグモ, スジアカハシリグモ, イオウイロハシリグ
モ
コモリグモ科/ウヅキコモリグモ, クラークコモリグモ
ササグモ科/ササグモ
アシダカグモ科/コアシダカグモ
ワシグモ科/メキリグモ, クロチャケムリグモ
カニグモ科/コハナグモ, ハナグモ, トラフカニグモ, ヤミイロカニグモ(?)
ハエトリグモ科/ネコハエトリ, マミジロハエトリ, ウデブトハエトリ, マダラ
スジハエトリ, アオオビハエトリ, アリグモ, アメイロハエトリ, ムツバハエ
トリ

和歌山クモ合宿の思い出

船曳 和代

久しぶりに関西クモ研究会の合宿に参加させて頂きました。あまり久しぶりだったので、天王寺から海南までの列車の中で、加村先生とは向かい合って座りながら、降りるまで気づかない始末です。

11時過ぎ、西川・加村両先生と今回案内して下さる東條先生の車に乗せてもらって、藤白神社まで行く。車中、熊野の歴史や各地に残る謂われを聞かせて頂きました。

藤白神社に車をおき、熊野古道を歩く。少し行ったところに有間皇子が殺害されたという場所があり、その槇の生け垣に珍しいキヌアミグモ・スズミグモが網を張っていた。特にキヌアミグモは、私には初めて見るクモであった。

小雨が降ったりやんだりしてとても蒸し暑かったが、写真を撮ったり採集したりと、3時間あまりはまたたく間に過ぎてしまった。再び海南駅に戻り、午後到着のメンバーとともに車で40分ほどのところにある宿泊地のセミナーハウス未来塾へ。

食後、西川・加村両先生による種々のクモ、東條先生による面白い加治木町のクモ合戦のスライドを見せてもらった。

そして、いよいよ夜間観察。あいにくの雨であったが全員ものともせず、傘をさして決行。卵のうの下で長々と寝そべっているようなオナガグモや、木の幹に忍び出てきたコアシダカグモを観察した。面白かったのは、ぼったり出てきた蟷蛙を山元・吉田両先生が「可愛い」と言ってつかまえて、もって帰られたことだ。運の悪い蟷蛙である。

観察後まとめ。お酒も入り、よもやま話に花が咲いた。なかでも、稲垣先生が串本で採集されたサカグチトリノフンダマシを見せてもらった時は、全員の食い入るような目が集まった。

翌朝は9時出発。雨も上がり曇りの観察日和。玄関先で山元先生がユーモアを交えながら、シダの名前を教えて下さった。

総勢13名で龍門山の谷に入る。クモの観察をしたり、シダの名前を教えてもらったり、一行は遅々として進まない。比較的珍しいヌサオニグモやトガリオニグモが見つかった。

お寺で昼食。そこでいま問題になっている地上部に横に袋を作るジグモを見つけ、西川先生が苦心の末、巣を掘り採集された。

食後、また少し谷を上がる。そしてこの採集会の目玉のひとつ、カネコトク

テグモの住居を観察した。雨後のせいか、とても見つけにくい。東條先生のように慣れていないと、発見はとても無理であろうと思われた。予定のコースを残して帰途につく。

久しぶりにクモの仲間と接触し、私には大きな刺激となった。1泊2900円という安い宿の世話から、コースの設定、案内など、東條先生にはたいへんお世話になり、本当にありがとうございました。

おわびと訂正のお願い

「くものいと第11号」に多くのミスがありました。すべて編集責任者（吉田）の責任です。おわびし、以下のように訂正させていただきます。

1 ページ

17行：ニュースや談話などが挙げられ→ニュースや談話などが掲られ

20行：専門家→専門誌

23行：H e p t h a t h e l a → H e p t a t h e l a

2 ページ

2行：彼としても→彼ととも

5 ページ

16行：カニグモ属→カニグモ科

6 ページ

19行：動文学報→動分学報

30行：a new species of → A new species of

7 ページ

8行：ビックニュース→ビッグニュース

15行：4編ある→5編ある

17行：クモ学会→クモ学界

二軒茶屋はクモの宝庫－第1回市民向けクモ観察会報告

吉田 真

昨年(2019年)の10月10日に、関西クモ研究会主催の市民向け第1回クモ採集・観察会を行なった。

交通の便が良く、クモの多いところは？

できれば大阪周辺の電車の駅の近くで、クモが多い場所がいいのだが、これがなかなか難しい。結局岩湧山が良いのではということ、西川さん・田中さん・加村君とともに下見に行った。

南海電車の高野山線で天見駅下車。八木沼先生お気に入りのフィールドだそう。この日は、CanonのEosというカメラの使いはじめ。フィルムの入れ方も知らない私に呆れ、西川さんがいろいろ教えてくれた。謝謝。

思ったよりクモが少なく、この下見は失敗に終わったが、田中さんがキジロオヒキグモを発見し、一同歓声を上げる。その他の収穫と言えば、西川さんがオオルリボシヤンマを捕まえたことと、私が曲がりなりにもEosを使えるようになったことか？

京都は狙い目？

大阪からはちょっと遠いが、京都にはいい場所が多い。私のフィールドである静原にはたいいていのクモはいる。コガネグモは4種類、ドヨウグモは3種類、オオトリノフンダマシまでいる。加茂川上流の河川敷でも良い。でも残念なことに、どちらも電車では行けない。

あちこち探しているうちに、叡山電車の二軒茶屋駅の近くで理想的な場所を発見した。駅から200メートルの道路沿い、後に山を控え、小川が流れるオープンな場所である。

知り合いの記者に頼んで京都新聞に案内を載せてもらった。二軒茶屋駅に10時集合ということにした。当日はうちの3男坊とともに参加。誰も集まらないのではと、内心不安だったが、結局18人集まった。

駅のそばの住宅地で見えたジョロウグモは、どれもこれも痩せていた。餌が少ないのであろう。踏切を渡り、山道に入って一同歓声を上げた。まるまると太ったジョロウグモが、ところせましと大きな網を張っている。

次から次とさまざまなクモが見つかる：造網性のもものでは、ギンメッキゴミグモ、ゴミグモ、ヨツデゴミグモ、ハツリグモ、コガタコガネグモ、ナガコガネグモ、アオオニグモ、オオトリノフンダマシ(卵のう)。

盗み寄生性のチリイソウロウグモ、フタオイソウロウグモ。穴居性のものではキノボリトタテグモ（巣のみ）とキシノウエトタテグモ。コモリグモのプロである田中・山野両君が参加されたので、コモリグモ類も10種ほど。

1キロほど歩き、自動車道のドン突きで昼食。その後山道に入り、道が細くなる。山越えをしようと思ったが、土地の人に聞くと獣道のようなだし、駅まで戻るのも大変なようなので、断念して帰途につく。

一時半頃二軒茶屋着。でも、西川・加村夫婦・金野の4人が戻ってこない。まあ、当然予想されたことではあるが。途中の石を全部ひっくり返しているんじゃないかしらん？まあ、ヨリメグモ、ワシグモ2種、ヤチグモが見つかったようだから許してやるか？

京大農学部の院生の浅井さんが関西クモ研究会に入会してくれるなど、成果の多い観察会であった。

参加者：浅井元朗、斎藤真緒、菅田吉雄、葉応圭一、唐沢史、吉田真・健太（以上京都市）、大浦良太（宇治市）、西川喜朗（茨木市）、金野晋（交野市）、加村隆英・昌枝（高槻市）、田中穂積・和代（富田林市）、石井尚子・孝紀、柏木あゆむ（堺市）、山野忠清（高石市）

会費納入のお願い

関西クモ研究会の会費は、年間1,000円です。今年度分をまだ納入しておられない方は、以下のところに振り込んで下さい：

郵便振替 大阪7-127257 関西クモ研究会

◇京都市左京区二軒茶屋の観察会

(1992年10月10日)で確認されたクモ

トタテグモ科／キシノウエトタテグモ(巢), キノボリトタテグモ(巢の中に死体)

ハグモ科／ネコハグモ

ウズグモ科／オウギグモ

ヒメグモ科／ヒメグモ, オオヒメグモ, オナガグモ, チリイソウロウグモ, フタ
オイソウロウグモ(?)

サラグモ科／アシナガサラグモ, セスジアカムネグモ

ヨリメグモ科／ヨリメグモ

コガネグモ科／ハツリグモ, アオオニグモ, ナガコガネグモ, コガタコガネグモ,
オオトリノフンダマシ(卵のう), ギンメッキゴミグモ, ゴミグモ, ヨツデゴミ
グモ, ワキグロサツマノミダマシ, イエオニグモ, ジョロウグモ, サガオニグ
モ, タニマノドヨウグモ

アシナガグモ科／オオシロカネグモ, ヤサガタアシナガグモ

ヒラタグモ科／ヒラタグモ

タナグモ科／クサグモ(古巢), コクサグモ, ヤマヤチグモ, クロヤチグモ, ヒメ
シモフリヤチグモ, カメンヤチグモ, カミガタヤチグモ

キシダグモ科／スジアカハシリグモ, イオウイロハシリグモ, アズマキシダグモ

コモリグモ科／ヒノマルコモリグモ, ウツキコモリグモ, ハリゲコモリグモ, ヤ
マハリゲコモリグモ, イナダハリゲコモリグモ, キクツキコモリグモ, チビコ
モリグモ, キバラコモリグモ

ササグモ科／ササグモ

フクログモ科／イタチグモ, コムラウラシマグモ

シボグモ科／シボグモ

アシダカグモ科／コアシダカグモ

ワシグモ科／マエトビトンビグモ, クロチャケムリグモ

カニグモ科／ハナグモ, トラフカニグモ

ハエトリグモ科／マジジロハエトリ, アシブトハエトリ, ウデブトハエトリ, オ
スクロハエトリ(?), デーニッツハエトリ, アオオビハエトリ

関西クモ研究会

会長 西川喜朗
編集 吉田 真
庶務 ~~会計~~ 加村隆英
会計 山野忠清

くものいと 第12号

1993年2月1日発行

発行者 関西クモ研究会 (代表西川喜朗)

〒567 大阪府茨木市西安威2-1-15

追手門学院大学生物学研究室内

Tel. 0726-43-5421

(内線5113 西川研、5106 加村研)

Fax. 0726-43-5427